

### 第3 問題作成部会の見解

#### 日本史 A

##### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

##### 2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 「学習指導要領」1の「我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」べく、社会に不可欠な「鉱物資源の開発と利用」をテーマに高校生が日本史授業の発表準備に取り組む場面を設定した。「学習指導要領」3(1)ウのうち「年表、地図その他の資料を一層活用させる」設問とした。幅広い時代にまたがる設問とし、史料を用いて、出題形式もバラエティに富むよう心掛けた。

問1 足尾銅山経営の基本的事実と、鉱毒事件をめぐる政府方針について、読解力、考察力を問うた。

問2 明治初期における欧米からの技術導入や官営事業の払い下げについて基礎知識を問うた。

問3 戦時期における資源をめぐる様々な事象の基本的知識を問い、「良問」と評価された。

問4 隣組の実態に関する史料に関する読解の技能を問い、史料を丁寧に読み解く力を求めた。

問5 高度経済成長の基本的知識と、公害・環境問題の基本的史料である公害対策基本法を同時代の社会・政治の変化のなかで理解しているかを、史料読解と習得した知識を活用して考察できるかを問うた。

問6 1970年代以降の日本の輸出入に関する基礎的知識を、時間的变化との関わりを踏まえて、正確に理解できているかどうかを問うた。

問7 第二次世界大戦後の日本とアジアとの関係に関する基本的知識について、包括的で正確に理解できているかどうかを問うた。

第2問 「学習指導要領」3(2)の「事実の正確な理解に導くようにするとともに、多面的、多角的に考察し公正に判断する能力を育成する」を踏まえ、学生二人の対話形式で問題点を設定し、設問では関連する史実や史料を提示し、思考力、判断力、表現力等により正解にたどり着くよう工夫して出題した。なお、本問は「日本史B」第5問との共通問題である。

問1 明治初期の近代化政策を推進した人物の事績が有する内政での意義についての知識・理解を問うた。「幕末維新期に活躍した人物の説明文と語句を組合せる設問」と評価された。

問2 幕末から明治期にかけての経済・貿易についての知識と思考力、判断力、表現力等を問うた。「二段階の判断が求められる設問なので、受験者にとっては自信を持って解答しづら

いであろうが、日本史の理解度を問う設問として適切な形式」と評価された。

問3 幕末期の政治過程および歴史的資料の特徴を、史料読解と歴史的な背景の分析によって導き出せるかどうかを問うた。X文は「やや難しいが追試験の難易度としては妥当」、Y文は「正誤判断は易しいが、史料批判について受験者に気付きを与えてくれる選択肢」と評価された。

問4 明治期における文学に関して、その特徴や多様性についての知識と思考力、判断力、表現力等を問うた。「文化史分野の学習が不十分であった者や、作者と作品名の暗記ばかりの学習をしていた者には難しかったであろうが、基本的な設問」と評価された。

第3問 「学習指導要領」2(2)アの「明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容」、ウのうち「国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっていること」を踏まえて作成し、1のうち「諸資料に基づき」「現代の諸課題に着目して考察させる」を念頭に、女性の就労についても問うた。

問1 日本初の女子留学生について、史料を読み解き、習得した知識も活用して、歴史的事象について考察する力を問うた。「史料を丁寧に読み解く力と、西暦を和暦に読み替える史料読解の力が求められた」と評価された。

問2 近代日本において国際平和を志向した人物について基礎的な知識を問うた。「人物を示すキーワードから解を導くもので、歴史上の人物の正確な理解が求められた」と評価された。

問3 日本と隣国朝鮮との関係について植民地化に至る流れを把握しているかを問うた。「時期を判別する用語や説明の配分が配慮されており、日清・日朝関係の変遷を問う良問」と評価された。

問4 近代日本における会社について基礎的な知識を問うた。「大阪貿易会社」「日本郵船会社」「東洋拓殖会社」「企業勃興」などの文中の語句について正確な理解が求められた」と評価された。

問5 明治期における日本の重要課題であった条約改正について、その交渉過程の推移を把握しているかを問うた。「条約改正について基本的な事項や変遷への理解を問う良問」と評価された。

問6(1)学校制度に関する知識を表の内容と関連させて考察し判断する力を問うとともに、現代ともひきつけて時の社会状況を類推する力を問うた。「表を読み解く分析力と読み取った内容が問題文の内容と一致するかどうかを考察する力が求められた」と評価された。

問6(2)女性の就労が増えた時代背景への理解や、教科書に名称がある職業を正しく理解しているかを問うた。「史料を読み解く力と論理的な考察力が求められた」と評価された。

第4問 「学習指導要領」3(1)アの「我が国の近現代の歴史の展開について国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から考察させる」を踏まえ、中国、アメリカ、イギリス、ドイツ、イタリア、ソ連などの国々を取り上げ、日本との関わりや日本社会について問うた。日本をとりまく近現代の歴史について、基本的知識を確認した上で、国際環境を意識した「世界の中の日本」という観点から、日本社会を様々な角度から考察させることを狙った。その際、当時の資料を活用して歴史を考察する力や分析する力、関連付けて考える力を問うた。Aでは「学習指導要領」にある「資料を活用して歴史を考察」していく力を、「我が国の近現代の歴史の展開について国際環境」から考えるため、当時の史料(吉野作造『日支交渉論』警醒社書店、1915年)を基に問う出題とした。Bでは「学習指導要領」の「資料を活用して歴史を考察」していく力を、「我が国の近現代の歴史の展開について国際環境」から考える出題とした。Cでは「学習指導要領」にある「我が国の近現代の歴史の展開について国際環

境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から考察させること」を踏まえ、「日ソ共同宣言」を中心に問うた。「政治史、外交史、文化史、教育史に関する小問で構成され、文献史料を用いた問いがみられた」と評価された。

問1 当時の史料を読み取り、分析し、国際環境の知識と結びつけて考察していく力を問い、中国と日本との関係や日本の外交世論について考察させた。「吉野作造といえば民本主義というイメージだけで取り組むとかえって難しかったかも知れないが、先入観なしに史料を読むことの大切さを教えてくれる設問」と評価された。

問2 史料で、日本の外交において、世論の力が大きくなっていることを読み取らせ、その背景にある初等・中等教育の普及が、文化面に及ぼした影響を問うた。「キング」「野間宏」「火野葦平」「正岡子規」などの文中の語句について正確な理解が求められた」と評価された。

問3 当時のめまぐるしく変化する国際情勢を理解するための基礎的な知識や世界史と日本史の関連を分析する力を問うた。「太平洋戦争開戦に至る日本の動向を正確に理解できているか」を問うていて、「歴史の流れの理解を重視した学習ができていているかが問われている良問」と評価された。

問4 国際環境の知識と地理的な結び付きを考察していく力を問うた。「歴史的事象に対し地理的理解も同時に行われているかが問われた問題」として評価されたほか、「日頃の学習から、地名が出てきたら必ず地図で確認するよう習慣づけるような指導が求められている」という教育現場へのフィードバックを促す問題としても評価された。

問5 日ソ共同宣言について、当時の国際政治や国際経済体制との関係、日本国内の政治・経済状況、北方領土の問題との関連を問うた。「対ソ関係や国際的立場など、当時の日本の状況について多面的な理解が求められた」と評価された。

問6 戦後日本社会の文化について、世界で日本人がどのような評価を受けたのか、基本的な知識を問うた。「湯川秀樹」「大江健三郎」「宮崎駿」「黒澤（黒沢）明」などの文中の語句について正確な理解が求められた」と評価された。

問7 第4問全体の総合的な問題とし、特に日本とアメリカの関係に焦点をあてて政治や経済に関する基本的用語（円高など）や歴史用語（門戸開放、経済安定九原則など）を、時代背景とともに理解しているかどうかを問うた。各選択肢の「時期と視点が大きく異なるため、近現代の日本と世界のつながりについて包括的で正確な理解が求められた」という評価のほか、「歴史用語の誤りではなく、内容説明の誤りであり、用語暗記中心の学習への警告となる」として、教育現場へのフィードバックを促す問題としても評価された。

第5問 「学習指導要領」2(1)の「現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものである」という観点から（中略）歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる」を踏まえ、女性の社会進出に関するテーマを取り上げ、さらに2(2)・(3)を踏まえ、近現代日本史の基本的事項とその関連を問うことを狙った。Aでは、昭和戦前期からアジア太平洋戦争（太平洋戦争）戦時下までの時期を対象に、芸能の世界で活躍した人物の取り組みにひきつけつつ、社会状況を扱った。Bでは、1950年代から70年代までの時期を対象に、漫画界で活躍した人物の取り組みにひきつけつつ、社会状況を扱った。Cでは、1960年代から2000年代までの時期を対象に、政界で活躍した人物の取り組みにひきつけつつ、政治状況を扱った。以上のように昭和戦前から2000年代までの社会状況、政治状況を広く問うた本問については、「政治史、社会経済史、外交史、文化史、教育史に関する小問で構成され、写真、自伝を資料として用いた問いがみられた」と評価された。

問1 1920年代から1930年代の社会・文化と女性に関する資料読解力を問うた。「写真にうつ

る服装や垂れ幕に書かれた文字に注目し、写真を分析する力が求められた問題」と評価された。

問2 1930年代前期の文化に関して、その前後の時期と違いを認識しているか、基礎的な知識を問うた。「大衆文化の成立についての正文選択問題で、各選択肢の内容や対象とする時期のバランスもとれており、平易な良問である」と評価された。

問3 1960年代の日本社会に関して、基礎的な知識を問うた。「冷戦構造の中で起こった事柄の時期の正確な理解が問われた問題」と評価された。

問4 1970年代女性の労働に関する証言と同時代の社会の動向を正確に読み取る力を問うた。資料として示された竹宮恵子の自伝の内容を読み取り、正文を判断する問題。「史料を丁寧に読み解く力と安保闘争・学園紛争の時期についての正確な理解が求められた問題」と評価された。

問5 1980年代と1990年代の政治に関して、リード文の説明を踏まえつつ、現代史の知識を活用して類推する力を問うた。「書名や人名を特定するキーワードから解を導くもので、歴史上の人物の正確な理解が求められた問題」と評価された。

問6 日本社会党に関する知識を、戦後日本の歩みとの関連性を踏まえて理解しているかを問うた。「日本社会党について、1947年当時の党首と1955年における動向が問われ、55年体制の確立に至るまでの社会党について正確な理解が求められた問題」と評価された。

問7 近現代における女性の社会的地位の歴史に関して、資料から類推する力を問うた。「女性の社会的地位に関わる法令に関する年代配列問題で、基本的な事項を問う平易な問題」と評価された。

### 3 出題に対する反響・意見等についての見解

高校教員からは、「全体的に、基本的事項の正確な理解や思考力、判断力、表現力等を問うものであり、受験者の培ってきた力や理解を評価するにふさわしいテストであった」との評価を得た。また、史資料の点数は減少したが、一方で正確な理解や考察力を求める問題は増加し、理解の質や考察力がより細やかに量られるようになった」との高評価を得た。教育研究団体からは、「全体を通して様々な史資料を活用して思考・判断させる問題が多く、新課程も見通した作問の工夫が伺える構成」との評価を受けた。このような「学習成果を活用した史資料の読解を求める作問」を今後も期待するとのことであった。

今後もこれらの点を継続しつつ、設題形式をいっそう工夫し、歴史的思考力を問う問題となるよう留意していきたい。

### 4 ま と め

本部会は、問題作成上の留意点として以下の4点を挙げている。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、平均点を上げるため、標準的な問題を作成するように一層心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題を多く出題するように工夫する。
- (4) 「日本史B」との共通問題の難易度について更に配慮する。

1回目に引き続き、今回2回目の共通テストでの知見の蓄積を活用し、ご指摘いただいたことも踏まえ、問題作成を行っていきたい。

## 日本史 B

## 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

## 2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 「学習指導要領」冒頭の「我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」を踏まえ、武士・兵士について、史資料等に即して具体的に考察する設問を用意した。場面設定は、「自由研究」を進める高校生同士の会話とし、歴史的事象を身近な問題、自らの問題として主体的、批判的に考察する姿勢の形成を促すことを意識した。Aでは、前近代の石器、武士、兵農分離をめぐる新しい知見も交えながら、主として図版、史料の読解能力を問う設問を用意した。Bでは、近世から近代にかけて、武士や兵士という存在をめぐる意識・イメージに関わる設問を用意した。「遺物のデータや文字史料を用いた」幅広い時代にまたがり、出題形式もバラエティに富むように心掛けた。「いずれも難しい読解・知識を問うものではなく、標準的な設問」と評価された。

問1 原始・古代の遺構に関する知識と、近世統一政権成立期の著名な事件に関する知識を問うた。「歴史用語として暗記の対象になりやすい「方広寺」ではなく、「鐘銘の表記」であるところに、共通テストが受験者にどのような学習を求めているかがよく表れている」と評価された。

問2 考古学の手法を問うた。「新教育課程における日本史学習のあり方を想定」するとともに、「資料と歴史叙述の関係性という歴史学の根本的理解について問う意欲的な出題」と評価された。

問3 寺院における武器を携行する僧兵の出現を示す史料の読解力と知識を問うた。「知識にもとづいた基本的な年代観を問う設問と評価された。

問4 17世紀後半の藩主の事績に関する基礎知識を問うた。「人名や作品名ではない部分に誤りがあり、人名・作品名をセットで暗記するだけの文化史学習では対応できない」工夫を評価された。

問5 武士身分の廃止による影響とその背景をめぐる知識を問うた。「一つの政策にも様々な側面があることを受験者に教えてくれる設問」であり、「意外な切り口から問うことで、学習で得た知識を多面的に考察させることに成功している」と評価された。

問6 徴兵告諭の内容を正しく読解した上で、徴兵についての知識を問うた。「丁寧な史料の読み取り」と「基本的な知識」とを「関連づけながら読むことで判断することができる」と評価された。

第2問 「学習指導要領」2(1)、アの「資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させる」、イの「古代国家の形成と展開」を考察させること、およ

びウの「古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景」を踏まえ、古代の政治・社会に関しての知識、史料読解の技能、思考力、判断力、表現力等を多様な素材を基に問うた。「社会・経済史を中心とした小問で構成され、表や史資料の読解なども出題された」と評価された。

問1 古代における穀物栽培について、稲作以外の雑穀栽培に着目させ、原始・古代の社会・文化に関する知識を問うた。「各時代の社会像についての正確な知識・理解が問われる」と評価された。

問2 古代国家の定めた諸制度の史料読解力、それを歴史叙述の根拠として結びつけて判断する力を問うた。「発表要旨や学習した知識(「義倉」など)を踏まえて史料を読解することが求められる」と出題意図に適った評価を得た。

問3 古代国家の租税制度について、表に示された情報・特徴を考察する力を問うた。基礎的知識(畿内の範囲)を踏まえた上で、二つの表を比較・分析する能力が求められる問題と評価された。

問4 古代農業・土地制度の推移・社会変化の理解力を問うた。「一問一答的な用語の暗記ではなく、それぞれの時代の土地制度の特徴を理解できているかどうかを問う良問」と高く評価された。

問5 設問全体を踏まえ古代の政治・制度と社会に関する理解力を問うた。「リード文(発表要旨)をしっかりと読むことを受験者に求めている点や、大問全体のまとまりを生じさせている点」が評価された。

第3問 「学習指導要領」1の「我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察」、2(2)の「歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察する」及び「武士の土地支配と公武関係」・「中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景について考察させる」を踏まえ、主に法制と法慣習のあり方に注目しながら、各時代の政治・社会・文化などの理解を問うた。Aでは中世の法制度のあり方、武家の法制のあり方や、朝廷の公家法、荘園領主の本所法などとの関係について、Bでは飢饉が頻発した中世の社会情勢と在地の警察権との関係について叙述した。高校生2人の会話を通じて、「中世の法制史、社会史、文化史、産業史などの諸分野」を幅広く問う問題と評価された。

問1 御成敗式目の制定者、および荘園領主が定めた本所法の理解力を問うた。「基本的な語句を問う問題」ながら、「基本的な用語である惣掟を手掛かり」に解答を導き出す工夫を評価された。

問2 法制定のあり方と社会状況との関係についての理解力を問うた。「現代的な価値観や先入観を排除して史料に向き合うことが求められる良問」と評価された。

問3 中世の公武権力による、様々な法運用・法と社会のあり方を示し、そのおおよその時代順を理解しているかを問うた。「キーワードから」「年代の順序を判断」できる問題と評価された。

問4 地下検断の実態に関する史料読解力・理解力などを問うた。「知識があっても史料を読まなければ判断できない内容で、史料を活用した設問として良問」と評価された。

問5 飢饉が多かった中世社会において育まれていた文化や産業に関する理解を問うた。「説明と基本的な用語を組み合わせる標準的な問題」と評価された。

第4問 「学習指導要領」2(3)の「近世の国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる」を踏まえ、「近世国家の形成過程とその特徴や社会の仕組み」を捉え、史料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の推移や変化を考察させる設問を掲げ、近世日本の基本的事項を問うた。「学習で生じた疑問を解決するという探究的な学習活動の一例

が提示されており，日本史学習のあり方の一つのモデルとも言える大問」と評価された。

問1 江戸時代の戦乱についての思考力，判断力，表現力等を問うた。「知識を抽象化して判断する力が求められ」る問題で，「用語の暗記だけの学習では対応できない良問」と評価された。

問2 複数の歴史事象を比較する分析的力，江戸時代の火災や救済の諸政策に関わる歴史的知識を問うた。「時代観と，文治政治の政策を判断する知識・理解が求められる」問題と評価された。

問3 宝永の富士山噴火に関する史料を通じ，近世の政治・経済に関しての思考力，判断力，表現力等を問うた。「丁寧な史料の読み取りが求められる」と評価された。

問4 江戸時代の日本人と外国人の関係に関する歴史的知識を問うた。「知識・理解を曖昧なままに学習を進めることに警鐘を鳴らす良問」と評価された。

問5 歴史的な事象を時系列的に捉える思考力，判断力，表現力等と知識を測るために，江戸時代の農業や学術の時代ごとの特徴を問うた。「人名で並べ替え可能な易しい設問」と評価された。

第5問 「学習指導要領」3(3)の「事実の正確な理解に導くようにするとともに，多面的，多角的に考察し公正に判断する能力を育成する」を踏まえ，学生二人の対話形式で問題点を設定し，設問では関連する史実や史料を提示し，思考力，判断力，表現力等により正解にたどり着くよう工夫して出題した。なお，本問は「日本史A」第2問との共通問題である。

問1 明治初期の近代化政策を推進した人物の事績の内政的な意義について問うた。「幕末維新期に活躍した人物の説明文と語句を組合せる設問で，いずれも基本用語である」と評価された。

問2 幕末から明治期にかけての経済・貿易について知識と思考力，判断力，表現力等を問うた。「二段階の判断が求められる設問なので，受験者にとっては自信を持って解答しづらいであろうが，日本史の理解度を問う設問として適切な形式である」と評価された。

問3 幕末期の政治過程および歴史的資料の特徴を，史料読解と歴史的な背景の分析によって導き出せるかどうかを問うた。X文は「やや難しいが追試験の難易度としては妥当」，Y文は「正誤判断は易しいが，史料批判について受験者に気付きを与えてくれる選択肢」と評価された。

問4 明治文学の知識や思考力，判断力，表現力等を問うた。「文化史分野の学習が不十分であった者や，作者と作品名の暗記ばかりの学習をしていた者には難しかったであろうが，基本的な設問」と評価された。

第6問 「学習指導要領」2の「我が国の近現代の歴史の展開について国際環境や地理的条件などと関連付け，世界の中の日本という視点から考察させる」，「資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を段階的に高めていく」を踏まえ，諸外国と日本との関わりや日本社会を問うた。当時の資料を活用して歴史を考察する力や分析する力，関連付けて考える力を問うた。Aでは「学習指導要領」の「資料を活用して歴史を考察」していく力を，「我が国の近現代の歴史の展開について国際環境」から考えるため，当時の史料を基に問うた。Bでは「資料を活用して歴史を考察」していく力を，「我が国の近現代の歴史の展開について国際環境」から考えさせ，Cでは，「我が国の近現代の歴史の展開について国際環境や地理的条件などと関連付け，世界の中の日本という視点から考察させること」を踏まえ，「日ソ共同宣言」を中心に問うた。「対外関係や世界情勢，文化史などを中心に小問が構成され，史料や地図を用いた出題もみられた」と評価された。

問1 史料を基に国際環境の知識と結びつけて考察する力を問い，日中関係や日本の外交世論を考えさせた。「先入観なしに史料を読むことの大切さを教えてくれる設問」と評価された。

問2 日本の外交と世論の関係，その背景にある初等・中等教育の普及が，文化面に及ぼした

影響を問うた。「人物と作品といった文学史に関する基礎的な事項と時代観が的確に身につけているかが問われる」と評価された。

問3 当時の国際情勢を理解するための基礎的な知識や世界史と日本史の関連を分析する力を問うた。「単純な年代暗記ではなく、因果関係を問うことを重視した出題として評価したい」、あるいは「歴史の流れの理解を重視した学習ができていないかが問われている良問」と評価された。

問4 国際環境の知識と地理的な結びつきを考察していく力を問うた。「日頃の学習から、地名が出てきたら必ず地図で確認するよう習慣づけるような指導が求められている」と評価された。

問5 日ソ共同宣言について、当時の国際政治や国際経済体制との関係、日本国内の政治・経済状況、北方領土の問題との関連を問うた。「当時の世界情勢を踏まえた上で宣言の歴史的意義を理解できているかが問われる」と評価された。

問6 戦後日本社会の文化に関する基本知識を問うた。「21世紀の内容も少しずつ出題されるようになってきた」なかで、「特段の知識がなくても解答可能なように作問されており、新型コロナウイルスの影響等で授業が思うように進められなかった学校の生徒でも取り組める内容」と評価された。

問7 第6問全体の総合的な問題とし、特に日本とアメリカの関係に焦点をあてて政治や経済に関する基本的用語（円高など）や歴史用語（門戸開放、経済安定九原則など）を、時代背景とともに理解しているかどうかを問うた。「歴史用語の誤りではなく、内容説明の誤りであり、用語暗記中心の学習への警告となる」として、教育現場へのフィードバックを促す問題と評価された。

### 3 出題に対する反響・意見等についての見解

高校教員からは、知識・理解と思考力・判断力・表現力等という二つの領域を組み合わせながらバランスよく問うことに配慮がなされた問題であった、と評価された。それは同時に思考力、判断力、表現力等の育成を目指している高等学校の現場と、大学への入り口となる試験で問う資質・能力との整合の方向性が具体的に示されたものでもあるとの見解が示された。教育研究団体からは、本試験に比べて史資料の種類は少ないものの、出題意図をつかみやすい設問が本試験より多く、求められている知識も追試験として標準的なレベルであったと評価された。出題範囲は考古学分野から1980年代まで網羅され、複数分野にまたがる混合問題が多いことも評価された。来年度も、これらの指摘を踏まえ、難易度や出題分野・時代のバランスに留意しながら、わかりやすい表現に努め良問を作ることを心掛けたい。

### 4 ま と め

共通テストにふさわしい出題形式、内容の標準的な問題を作成できたと判断している。来年度以降も、以下の4点に留意して作題を進めたい。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、標準的な問題を作成するように一層心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題を多く出題するように工夫する。
- (4) 「日本史A・B」との共通問題の難易度について更に配慮する。

1回目に引き続き、今回2回目の共通テストでの知見の蓄積を活用し、ご指摘いただいたことも踏まえ、問題作成を行っていきたい。